

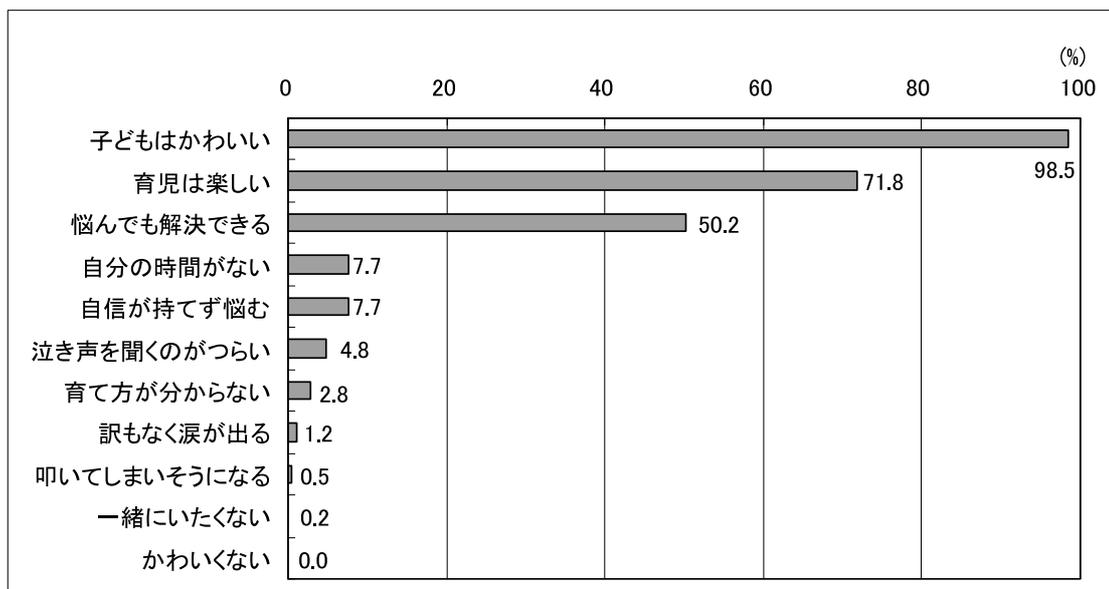
(6) 心の健康づくり

①現状及び評価

6-1 育児を楽しんでいる母親の増加 (4か月児)

4か月児を持つ母親のうち、「育児は楽しい」と感じている人は減少した。一方、「子どもはかわいい」と感じている人は98.5%と高くなっている(図23)。

(図23) 母の育児に対する気持ち (平成22年度4か月児健診アンケート, 複数回答)



6-3 虐待の相談件数

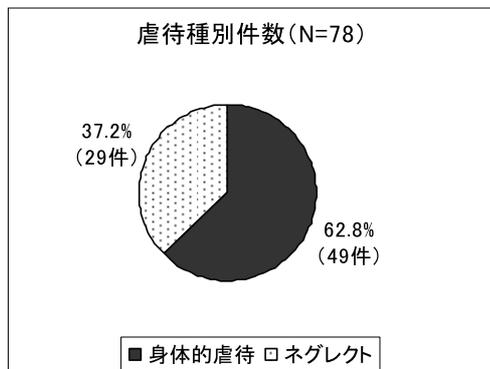
6-4 子どもへの虐待感を持つ親の減少

子どもの虐待の相談件数は増加した。

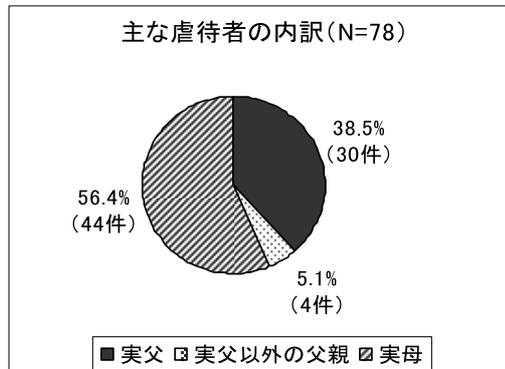
また、虐待感を持つ親の指標は、1歳6か月児、3歳児とも減少し、1歳6か月児と3歳児を比べると、3歳児の方が虐待感を持つ親の割合が多いことから、3歳児になると言葉や行動による自己主張が強くなる反面、親が幼児の成長過程に伴う要求や行動を受容し、対応することができずに虐待感を持つようになるのではないかとと思われる。また、この年齢になると下の児の誕生など育児環境の変化により多くなっているものと考えられる。

虐待の内訳では身体的虐待が49件、ネグレクトが29件であった(図24)。また、主な虐待者は実母が最も多く、次いで実父と実父母による虐待が9割以上を占めた(図25)。

(図24) 虐待種別内訳(平成22年度子ども福祉課)



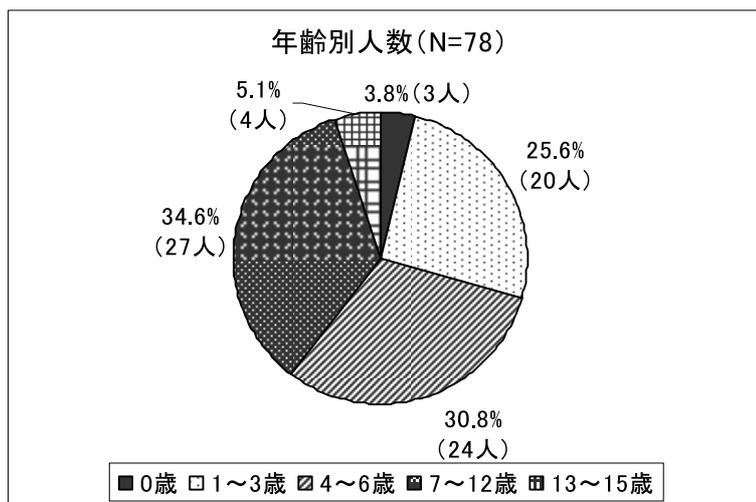
(図25) 主な虐待者の内訳(同左)



被虐待児の年齢は、6歳までの乳幼児が47人と全体の6割を占めており、少数ではあるが0歳が3人、13~15歳が4人であった(図26)。

(図26) 被虐待児の年齢

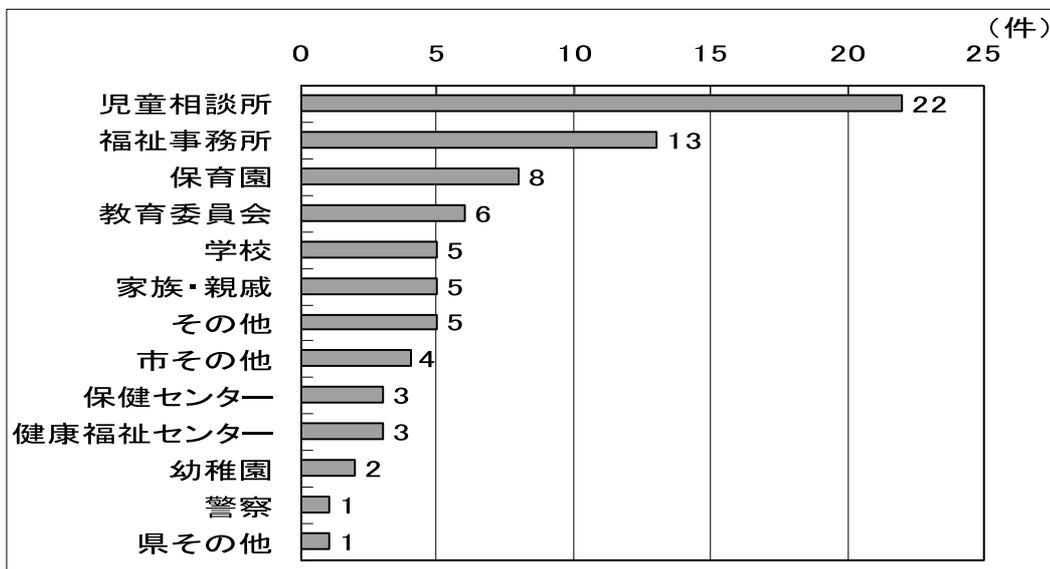
(平成22年度子ども福祉課)



虐待事例を市が把握した経路は、児童相談所が最も多く、次いで福祉事務所、保育園の順になっている。その他の機関からも情報提供があったことから、虐待について社会全体の認識が高まってきていると考えられる（図 27）。

（図 27）発見経路

（平成 22 年度子ども福祉課）



6-5 子育てに関する相談相手の配偶者の増加

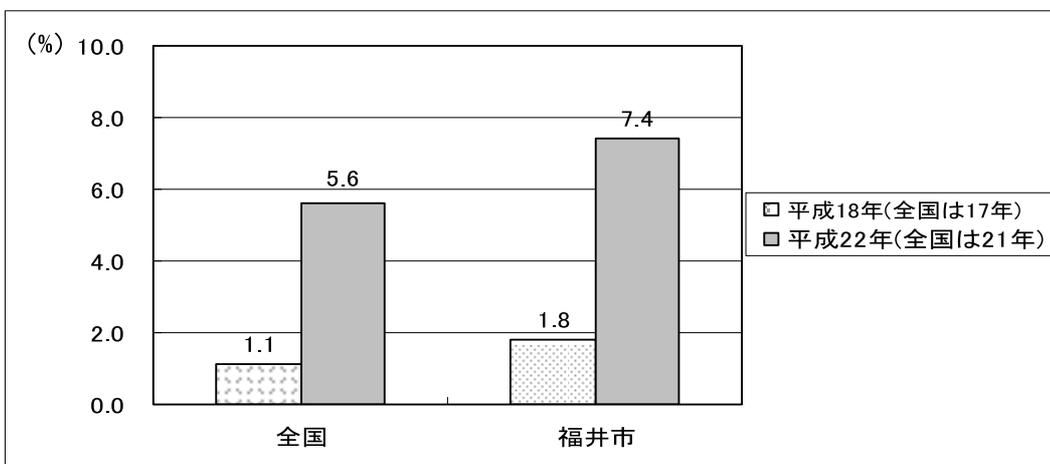
6-6 育児について相談相手がいない母親の減少

子育てに関する相談を配偶者に相談すると答えた親は1歳6か月児、3歳児とも減少し、また1歳6か月児で相談相手がいない母親は増加した。全国も同様の傾向にあり、更に本市は全国と比べて高いことから（図 28）、窓口の周知が十分にされていない、気軽に相談できない等の要因があるのではないかと考えられる。

（図 28）子育てに関する相談相手がいない母親の割合

（福井市：1歳6か月児健診アンケート

全国：「健やか親子 21」中間評価）



6-7 生後4か月までの訪問件数の増加

生後4か月までの訪問件数は、「乳児家庭全戸訪問事業」を開始したことから増加した。

生後間もない児の子育ては母親が様々な不安を抱えていることが多い傾向となっていることから育児不安等の早期発見、早期支援に向けた取り組みが必要と思われる。

②指標の変更について

6-1 育児を楽しんでいる母親の増加 → 「泣き声を聞くのがつらい」「叩いてしまいそうになる」「一緒にいたくない」「かわいくない」と感じている母親の減少

育児において、「泣き声を聞くのがつらい」等の不安や負担を感じることは、虐待につながる懸念があることから、今後これらの母親への適切な支援に取り組むため、指標を変更する。

6-5 子育てに関する相談相手の配偶者の増加

配偶者だけではなく、子育ての相談相手がいるかどうかが重要であるため、6-6の指標のみとし、削除する。

③今後の方向性

- 子育て支援センター、子育て広場等の広報や周知を行うとともに、子育てなどの相談機関の情報提供に取り組む。
- 福祉、保健、医療、教育等の関係機関の連携体制を強化し、子どもの虐待予防と支援に取り組む。